

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400022		
法人名	社会福祉法人 高洋会		
事業所名	グループホームちやたん		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町字宮城1番793		
自己評価作成日	令和5年10月23日	評価結果市町村受理日	令和6年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4792400022-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和5年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスが感染症法上、2類から5類に変更した事により面会、外出制限の緩和、外部との交流(同一敷地内の通所介護、ボランティア受入れ、運営推進会議の集合開催)など機会が増加しています。
事業所内では掃除や洗濯量み等、出来ることは行ってもらい、自立した生活が営めるように支援し、レクリエーションや機能訓練などを行い、活気のある生活が送れるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

勤務調整の際、休み希望は取りやすいとの職員からの声がある。また、就業規則が整備されており制度が整っている。事業所に求められているハラスメント対策については指針とマニュアル、フロー図が作成されており実際に相談が発生した際の具体的な動きと対応策が示されている。急性期病院退院後、新規利用者の初回からの計画を利用者の心身の状況の変化には主治医の意見をふまえながら、より良く暮らすことができるための介護計画を作成している。また、外国人人材を受け入れるにあたり配慮を行った例として服薬管理において、朝昼夕に分けられた個別の服薬容器に利用者別に顔写真がつけられており、外国人職員も服薬の間違いが起らないようわかりやすい仕様となっている。外国人職員からの意見も聴取しながら、すべての介護職員が安心して仕事ができるよう試行錯誤を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を詰所内に掲示し、意識し実践につなげられるように努めている。	法人の理念を基にしてグループホーム独自の理念を作り上げている。人財育成の視点を日々の実践の中で意識的に取り組んでおり、管理者と職員ともに共通認識をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は行えていないが、同一敷地内の通所介護、ボランティア受入れ、地域行事へ参加が少しずつ増加している。	地域住民である元利用者家族によるドッグセラピーや読み聞かせボランティアを受け入れている。また近隣の保育園との交流も再開しており先日も保育園児の訪問も実現している。隣接する公園を会場にした地域のまつりにも3年ぶりに参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ流行があり認知症サポーター養成講座など行えていない。今年度、再開する予定なので機会があれば参加したい。今年度は認知症カフェを行う事を目的にしていたが、事業所内でコロナ感染が蔓延したため、計画を中止している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進員より地域の情報をいただき、外出支援につなげている。	年6回の運営推進会議の開催が確認された。書面開催時には資料を構成員に郵送配布し周知を図っていた。年度途中から対面で再開し、活発な質問もあり事業所の中身を評価していただくことが円滑に行えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に町の職員が参加されており、連絡等は取れている。また、町のグループホーム連絡会が定期的開催されており、その中で情報共有等、行っている。	町の担当者とは日頃からメールや電話などを使い頻りに連携をとっている。また、町主催で町内のグループホーム連絡会を定期的開催している。その場を活用して行政からの情報を報告・共有することが出来ている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	声かけの工夫や、一部の利用者についてはセンサーで対応しており、身体拘束は行われていない。定期的に勉強会を実施しており、身体拘束についての理解を深めることに努めている。	身体拘束適正化に関する指針とマニュアルが整備されている。利用者や家族と相談確認した上で、ベッド周辺の転落防止センサーを設置して自由を奪わないよう安全確保に取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の虐待防止委員があり指針を作成し定期的にミーティングを開催している。定期的な勉強会を行い、虐待についての理解を深めるように努めている。	高齢者虐待防止の指針とマニュアルが整備されている。認知症ケアにおいて自身の感情のコントロールが課題になることを踏まえ、アンガーマネジメント研修に参加して職員間で共有に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者が現在不在のため、定期的に学ぶ機会を設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、計画作成担当者にて利用前に本人と家族と面談を行い、十分な説明を行い、両者が納得の上で利用を開始してもらえるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と日常生活のコミュニケーションの中で要望や意見を聞きだし、家族とも面会時や電話連絡時に声掛けし意見を聞きだせるよう努めている。	主任を兼務している計画作成担当者は、家族の来訪時には必ず声をかけることを重視しており「何かありませんか」と意見を言い易いよう配慮している。家族からの要望で夜間の職員体制の見直しなど意見をいただくこともあり、都度真摯に対応するよう心掛けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や毎日のミーティングの中で職員からの意見や提案を取り上げて業務に反映できるよう努めている。	管理者と主任は職員が意見を出しやすい雰囲気づくりを心掛けており、主任は計画作成も兼務しつつ介護業務に従事しているので職員の働き方を理解している。職員からの提案で自動体外式除細動器の設置場所を変更し業務改善に繋がった。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望等を聞き、反映させるように努めている。資格取得により給与が上がるような制度を設けている。	勤務調整の際、休み希望は取りやすいとの職員からの声がある。また、就業規則が整備されており制度が整っている。事業所に求められているハラスメント対策については指針とマニュアル、フロー図が作成されており実際に相談が発生した際の具体的な動きと対応策が示されている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人員配置の問題もあり外部研修の受講が減少している。事業所内での勉強会を定期的に行い学ぶ機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北谷町グループホーム連絡会に参加しており、情報交換等を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者、管理者により、利用前に本人、ご家族と面談し、本人の思いや困っていることなどを聞き出すようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者、管理者により、利用前に本人、ご家族と面談し、ご家族の思いや困っていることなどを聞き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に本人、家族と面談を行い、アセスメントを取ることで他のサービスも含め、必要としている支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ傾聴し、本人の出来ることは可能な限り自分で行ってもらうようにし、できないところを職員と一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日用品等、必要なものについてはできるだけご家族に持ってきてもらうようにして来所し面会する機会を多く持てるようにしている。また、必要に応じて電話などで本人の状況を伝えるようにしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどで、本人のなじみの場所へ行ったり、敷地内の通所介護に古い友人との交流を行いながら、なじみの関係が継続できるように支援している。地域の運動会などの地域の行事にも参加している。	グループホームの利用者と同じ建物内にある通所介護の利用者が知り合いで、希望の声があった時にお互いの場所を行き来し交流がある。また、地域のまつりに参加した際も利用者が若い頃の知り合いに再開を果たした出来事があった。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士会話ができる方がおりレクやゲーム、雑談会等を行うことで利用者同士と一緒に参加できるようにし、コミュニケーションが取れるように支援している。認知症の影響からトラブルになりそうな事もあり職員が間に入って交流の支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても家族が今後の不安等の相談があれば支援できるよう声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前に家族、本人へ意向や希望の確認を行うように努め、利用後はその都度、利用者の一人ひとりへ「今どこに行きたい」「何がしたいですか」「何が食べたいですか」等、聞きながら今後のサポートに活かすよう努めている。	利用者と密にコミュニケーションを図り、過去の仕事、生活歴など本人の口から語られる内容に傾聴の態度で触れている。礼節を重んじる利用者が職員に怒鳴りだすことがあったが、何事だろうかと利用者から話を聞くと、礼節を欠いた態度を正してほしかったという理由が判明し職員も納得した。利用者の思いや意向の聞き取る重要性を本件からの学びにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の本人と家族の面談時や情報提供書、サマリーなどで把握するようにしている。また、入居後は、雑談などで出てきた話題をもとに把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態確認を毎日のミーティングや定期的な会議の中で、本人にあった生活が送れているかを確認し職員間で情報共有に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状況の変化があれば、家族と情報を共有し主治医などの意見を伺い計画に反映するよう努めている。また定期的なカンファレンスに本人、家族を交えケアの方向性を再検討している。	介護計画の作成には利用者、家族の意向や日々のケアにおいて職員からの意見も反映させて作成を行っている。また、利用者の心身の状況に変化がある際には主治医からの意見をふまえながらより良く暮らすことができるために介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察や記録を行い、状態変化があればミーティングや会議で情報共有し、新しい課題が表出した際は検討し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない際の病院受診の送迎を行っている。また業務にとらわれず、利用者の意向があれば臨機応変に外出支援を行っていたが、新型コロナウイルスの影響で外出の機会は減少している状態。日々、試行錯誤し質の高いサービスの提供を行うよう検討しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働は殆ど行っていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ既存のかかりつけ医を利用するように勧めている。家族の希望があれば往診が可能な医師を紹介している。	5名の利用者はかかりつけ医があり、4名は1か月に1回の訪問診療を利用している。入居当初、易怒性が高く、暴力行為があった利用者の対応について家族とも相談し、専門医につなげ、前頭葉が萎縮していることや混合型の認知症を発症していることから服薬の調整をすることで本人が落ち着いて過ごすことができるようになった。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自事業所には看護職員の配置は無いが、同敷地内の事業所に看護職員がいるため、利用者の体調等についてアドバイスをもらうことがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は適宜、医療相談員と連絡を取り合っ情報共有に努めている。受診を検討する段階で主治医との相談を行うように努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と必要に応じ事業所で終末期の対応が出来る事を説明するようにしています。令和5年6月に家族、主治医、訪問看護と看取りのチームを結成し対応しています。	利用者の状況に応じた重度化や終末期に向けた対応を行っている。令和5年6月には家族と相談のもと主治医の支援や訪問看護と連携し看取りの対応を行った。その際には職員にも看取りに関する知識や心構えを看護師や主治医とも話し合いチームで対応を行うことができた。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は緊急時の対応方法についての訓練を行っておらず、ミーティングの中で緊急時の対応方法を確認するよう努めている。	事故発生時の対応や緊急時の対応マニュアルが確認でき、ミーティングの中で話し合いを行っている。ヒヤリハットや事故報告が作成され、職員での対策や共有がなされている。緊急時の対応についての訓練は今年度実施がないため次回に期待したい。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	避難訓練は定期的に行っているが、地域との協力体制は築けていない。感染症の予防、まん延防止の為に委員会を設置し研修及び訓練を行っている。	日中の避難訓練の実施が確認でき、夜間帯の避難訓練は12月に計画している。また、津波を想定した避難訓練を実施し、避難場所の浜川小学校まで避難を行い、移動時の難しさを体感することができた。備蓄が準備されており、賞味期限を確認しながら期限の近いものを食事へローテーションしながら使用している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にミーティングや会議の中で利用者に対する声掛けや態度、プライバシーの保護に関する接遇の重要性について話し合いを持つように努めています。	利用者同士のやりとりにおいて職員が本人の許可なしに個人情報を出さないよう留意している。また、外国人の職員には特に言葉の伝え方に留意して指導を行っている。また周辺地域の環境を考慮して共有スペース入口に防犯対策からカメラを設置しているが、利用者と家族に説明を行って理解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの「やりたい」を尊重し可能な限り、対応していくように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の雑談会などで、どのように過ごしたいかなどを聞くようにしている。出来るだけ本人の希望に沿って支援するように心がけているが、できないことも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの衣類などは本人に聞いて決めてもらっている。また、家族と協力し、古くなった衣類などがあれば交換してもらうようにしている。また定期的に訪問美容室を利用している。整容の日を設け爪切りやムダ毛の処理を行う。時にはマニキュアを塗ることもある。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲でオヤツ作りなどを活動に取り入れており、一緒に調理をしたり食事の準備や片付け、テーブル拭きを手伝ってもらう事もある。	屋外は外注にて食事の提供を行っており、屋内のみ厨房にて調理し、提供している。8割の方が介助を受け、ミキサー食、刻み食など利用者に合わせて食事形態で提供している。協力的な利用者がテーブル拭き、食器類の片づけを一緒に行ったり、魚屋を営んでいた経験のある利用者には本人の同意を得て魚をおろしていただくこともある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事、水分量のチェックを行い職員間で日々のミーティングで情報共有を行い、摂取量が少ない際は水分の促しを行ったり、本人の好むものを準備する等し対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者個々の必要に応じた口腔ケアを実施。本人ができない部分は職員が支援している。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンに合わせて、排泄の促しやトイレへ案内する等、アプローチを心がけている。	利用者の排泄パターンに合わせることで日中はトイレでの排泄を行っている。夜間帯では半分の方はオムツ使用し、起きてきた方は排泄介助を行っている。 自立支援を促しリハビリパンツから布パンツへ変更した方もおり、できる限り座位保持が可能な方はトイレでの排泄を促し自立支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分摂取を促しており、排便状況を確認しながら主治医との相談のもと下剤の調整を行っています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は設定されていますが、本人の意向があれば、時間や曜日を変更するなど、対応できるよう努めています。	基本は週2回の入浴支援を行い、午前中にすべての方が入浴を行っている。体調面から午後に入浴する場合もあり、状況に合わせた配慮を行っている。入浴拒否はほとんどないが、拒否があった場合には、時間や職員を変えたり、日を替えて試すなど本人の意思に添えるよう工夫をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の体力や生活習慣を考慮しながら休息を促すように努めている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の内服の説明書をファイルにまとめて簡単に閲覧できるようにすることで内服薬の把握に努めている。内服のチェック表、マニュアルを整備している。	1日分の朝昼夕に分けられた個別の容器には利用者別に顔写真がつけられ、外国人職員もわかりやすい仕様となっている。投薬容器を夜勤者が1日分セットし、その時間ごとの勤務者がキッチンに準備し、食前食後に提供している。服薬マニュアルに沿った服薬支援を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者や職員が生まれる前や地域の話の聞いたり、気分転換に外気浴を行い、生活がマンネリ化しないようにして個別に楽しむ時間、職員と利用者同士がゆっくと楽しめる時間を作るよう努めています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が対応できる日中の時間であれば、外出などの要望に応えるよう努めていますが、今年度は新型コロナの影響もあり行えていない。	今年度から区の祭りに参加し、利用者が楽しむことができた。定期的な外出は行えていないが、利用者からの外出したいという声が少なくなっているため声を拾いあげていけるよう心掛けている。ベランダでの外気浴を定期的に行っており、植物への水かけや観察を一緒に楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は自己にて管理できる方のみ対応しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する利用者は携帯電話を持ち込んでおり、職員が支援して電話を掛けたり受けたりの支援を行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適宜、掃除や換気を行っている。季節ごとの飾りつけを行い、季節感を感じてもらいながら楽しんでもらっている。事業所内の好きな場所で各々が自由に過ごしてもらっています。	共有空間には季節に合わせた飾りつけや大型のテレビが設置され、利用者の好きなテレビ番組が流れている。席の配置は決まっていないが、利用者同士がトラブルにならないように職員が声かけを行い配慮している。利用者自ら新聞の記事から好きな動物の写真を切り出して飾ったり、過ごしやすい空間を作れるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置は固定せずに、自由に共有スペースを共用できるよう心掛けているが、事故や体調不良時等の見守りが必要な利用者は制限する事がある。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が作った作品や家族の写真を飾ったり、入所前に使い慣れた物品を持ち込んでもらうように努めています。	入所前に本人と家族へ家具等の馴染みの物についての持ち込みを説明し、利用者が居心地良く過ごせるように配慮されている。自立度の高い利用者はテレビや使い慣れた家具を持ち込み、本人が住みやすいように配置を職員と一緒に手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が移動する動線の環境整備を行い、ヒヤリハットや事故が起きた際、環境の見直しを行うように努めています。利用者が安全に自立した生活が送れるよう心掛けています。		